

くらしサポートセンター 守口ニューズ



vol.20

2018年8月

発行：くらしサポート
センター守口
〒570-0083
守口市京阪本通2丁目5-5
守口市役所7階

マガイ物
0800-200-8011
TEL：06-6998-4510
FAX：06-6998-4512

無料職業紹介で

WIN-WINに

守口市八雲東町で警備業を営む株式会社ニューシステム様には、これまでくらしサポートセンター守口から何人もの方が採用され、そのほとんどのの方がずっと継続してお勤めされています。その秘訣を吉川社長にお伺いしたところ「本人の体力や希望をできるだけ聞いてあげて、できるだけそれに近い現場を紹介しています」とのこと。フルタイムで働いて収入をアップさせたい方や短時間の仕事から初めて徐々に勤務時間を増やしていきたい方など弊所の利用者のご希望は様々。そんな一人一人に合わせた環境を用意していただいています。これからも利用者の会社も弊所も、みんながハッピーになれる関係を築いていきたいと思えます。



現場の声

In 株式会社 ニューシステム

休日の融通も聞いてくれて
給与の支払いも融通が利きと
てもアットホームで働きやす
い職場です。



『守口市無料職業紹介所』

くらしサポートセンター守口併設

『周りにこんな方いませんか?』

- ①就職活動の進め方に迷っている方。
- ②どんな仕事に向いているのかわからないという方。
- ③頑張っても応募してもなかなか仕事が決まらない方。

まずは
ご連絡下さい!



《メニューの一覧》

- ◆ハローワーク求人端末機による仕事検索
- ◆守口市内の求人情報誌、求人広告の情報提供
- ◆履歴書・職務経歴書の書き方
- ◆面接トレーニング（予約制）◆履歴書写真撮影
- ◆コミュニケーショントレーニング（予約制）
- ◆職業能力適性検査（予約制）
- ◆職場体験（必要に応じて）◆個別求人開拓（必要に応じて）

連絡先⇒⇒0800-200-8011

まんぷく食堂1号店

★移転のお知らせ★

まんぷく食堂1号店は、2018年8月4日に、かねてより念願のララはしば商店街の中に移転しました。皆さまのご支援により、この移転が実現できましたことを、心より感謝申し上げます。

広くなった新たなまんぷく食堂は、ララはしば商店街の皆さまや地域の方々との多世代の交流を行える場所としてリニューアルし、地域の皆様やボランティアさん等皆で力を合わせ、まんぷく食堂が拡大発展できるよう努力いたします。今後も皆さま方の変わらぬご理解とご支援をお願い申し上げます。

移転後の第1回まんぷく食堂では、開設準備が8割程度で調理場にクーラーがない中、ボランティアさんの奮闘でカレーライスを作りました。こども10人、商店街のお客様が来てくれました。

商店街の方からお米30キロを寄贈や運営のお手伝いをいただき、大変助かっています。また、地域の方からも運営資金の寄付等の協力をいただきました。次回、8月25日（土）です。

★新住所★ ララはしば商店街

（守口市西郷通1-3-3）

費用… こども 無料 大人 300円

日時… 8月25日以降は、毎週土曜日開催（閉店することもあるので事前に確認ください。）

参加者・ボランティア・食材・カンパなど募集しています。ワイワイガヤガヤみんなで一緒にお昼ご飯を食べ、元気に遊びましょう!



8/3 家族会特別例会 ひきこもり支援での医療連携を考える

クラウドサイン小林将元さんの講演から

ひきこもっている状態＝楽 ではないと思います。
その状態を「しんどいよね」と言ってくれる人がいたら、
少し、話してみてもいいと思えるかもしれません。

(参加者のアンケートより)

「しんどい」「しんどい」
でも「知りたい」

今回のイベントの前に、あるお母さんから左記の言葉をいただきました。

ひきこもり相談で「発達障害では？」と言われたことがあります。医療受診は必要だろうか？ 必要だとはっきりわからないし、何をどうするために受診するのか、わからない。受診したら何がわかって、そうしたらどうすることが出来る...というところが何も見えない。不安はあるけれど、本人も動けない状態であるため何もしない、というのが今の親の私の状態です。だからどうしたい というよりも 知りたいです。

親として、とても素直な感覚で来場者の思いの一つの典型といえるでしょう。講師の小林将元さんは、クラウドサインに来られる相談者と「発達障害だ」というのか？ それでどうしたら良いのか？その場合の医療の役割は何か？といった医療機関に行くのが良いのか？行くことで得られることとは何か？といったことを整理していくことが、日々の活動のヒントとなっていきます。

居場所を得るために

医療診断を使うこと

小林さんは高槻市で精神保健福祉士として精神医療に関わった経験をベースに

されています。その年代に社会で経験すべきことができない状態を、長期入院を余儀なくされていた入院患者さんと同質の人生の危機としてとらえる感性から、若者自立塾など無業者やひきこもりの若者支援を10年以上続けてこられました。



発達の偏りや特徴、不安感や抑うつ感、焦燥感など、現代社会では誰でも精神科を受診して心配を話せば診断名の一つも付くような状況の中、診断を得ることで本人の居場所や就労に結び付くならば良い選択といえるのではないかと、というスタンスで医療受診のコツを紹介いただきました。

一喜一憂せず

態度をコロコロ変えず

家族の日々の接し方として、いろいろなできごとや親の気持ちの揺れがあっても、ぶれない気持ち、3か月後も同じ言葉がけができることを言ったほうがいい、という助言がありました。その時の親の気分で、ああしろこうしろと言ったり、関心を寄せたり突き放したりするのでなく、一貫した態度でいることが大切とのことでした。

留まるも地獄

行くも地獄

講演会にはクラウドサインで支援を受けているひきこもり当事者にも参加いただくことができました。家族の見守りを有難く思いながらプレッシャーでもあること、ひきこもっていると(家に)留まるも地獄(外に)行くも地獄という葛藤を抱えること、など聞かせてもらいました。

参加者アンケートから

- 日本の精神医療の変化の時代の中で「ひきこもり」に舵が切り替わりつつあるのかなと思いました。
- 当事者に「欲がない」というのは本当にその通りだと思えます。「いい加減でいいの」...というのもしごく良くわかります。当事者のお話しが聞けて良かったです。
- 家族を助けてくれる人がいたら、どんなにか救われただろうと思います。

これからも様々な実践や経験から学んでいけるよう家族会を開催します。10月の特別例会には、あんだんての代表である福本早穂さんをお招きしています。

くらしサポート
センター守口
0800-200-8011

ひきこもり・不登校等、子どものことを心配する家族の会は、毎月第1金曜日を開催しています。

14時から、中央エリアコミュニティセンター（市役所地下1階）です。はじめての方はお電話ください。